

# 男鹿潟上南秋地区特別支援連携協議会通信No.9

事務局：秋田県立養護学校天王みどり学園

発行：平成28年2月17日

## 地域のネットワークが構築される

「地域の子どもは地域で共に育てる」をキーワードに、今年度も2回目の本協議会を保健・福祉・教育行政担当者、園や学校代表者が出席し、地域ごとに開催することができました。

今号では、2市2町で実施した協議会の内容を報告します。最初に事務局から特別支援教育の動向や他地区の取組を紹介した後、協議テーマ「地域で特別な支援が必要な子どもを支える・つなぐネットワークの構築」に基づいて、出席者の皆様から、現在取り組んでいる活動の成果や課題、あるいは、来年度の計画について報告していただきました。

## 各地区の協議内容の紹介

**男鹿市連携協議会** 平成28年1月20日（水）14:00～15:30 男鹿市役所

昨年10月に続いての開催でした。男鹿海洋高等学校と男鹿東中学校の先生の参加もあり、就学前から高校卒業までの支援体制づくりが話題になりました。

### 〈健康子育て課〉

- ・「満5歳けんこう相談」は、教育委員会や天王みどり学園等の協力を得たことで、様々な角度から子どもを観察できるようになった。フォローアップ対象児に対しては、電話かけをして相談につながっている。臨床心理士や保健師が子どもの気になることを保護者に伝えることは、早期発見・療育につながり、園や小学校として助かるという意見が寄せられた。

### 〈福祉事務所〉

- ・健康推進課、園や学校と連携しながら、保護者へ支援している事例の報告があった。もし虐待が疑われる事案が発生したときは、事実の裏付けと早期対応が大切であることを確認した。

### 〈教育委員会〉

- ・来年度の就学状況と就学支援シートの活用状況について説明があった。現在、希望制で実施している小学1年生を対象とした「言葉の検査」については、その必要性やフォローアップ体制も含めて時間をかけて検討していく。

### 〈保育園代表〉

- ・「満5歳けんこう相談」を4月の総会で説明したり、担任がその都度保護者に連絡したりしている。就学支援シートの様式を教育委員会と一緒に検討したので、記入しやすくなった。シートを基に、保護者と面談することで子ども理解につながっている。

### 〈船川第一小学校〉

- ・就学支援シートなどの資料が上がってくる子どもは良いが、申し送りのな子どもや保護者が子ども理解できていないケースが難しい。通級指導教室の利用者（自校・他校とも）が増えているため、担当者をフォローする体制が必要である。

### 〈男鹿東中学校〉

- ・家庭が落ち着かないために、生徒の生活面に影響しているケースが多い。中学校は進路指導が課題となっている。天王みどり学園の出前授業を活用して、生徒や保護者に障害に関する具体的な知識を提供したり、特別支援学校を正しく理解したりする機会を検討したい。

### 〈男鹿海洋高等学校〉

- ・生徒が広範囲から通学しているため関係機関との連携が難しい。地域生徒指導研究推進協議会（地生研）から情報を得ている。生徒への対応は、担任を中心に学年部で動くことが多い。

## 五城目町連携協議会 平成28年2月1日(月) 14:00~15:30 五城目町役場

昨年度同様、保育や学校現場の先生方の他に、健康福祉課長や学校教育課長の出席があり、活発な情報交換が行われました。

### 〈健康福祉課〉

- ・妊婦のときから支援を始めて、乳幼児健診につなげている。5歳児発達相談で、グレーゾーンの子どもたちに気付けるようになったり、園や学校と連携が強くなったりした。医療機関を利用する際、保護者が不安な場合は、子どもの詳しい情報を伝えるために保健師が同伴している。

### 〈教育委員会〉

- ・就学支援シートを効果的に活用できるように、教育委員会が「保護者・園・小学校」をつなぐ役割を果たしたい。新入生の情報交換ができる場を設定したい。支援員配置については、保護者の同意を前提としている。

### 〈もりやまこども園〉

- ・研修を受けた3名の職員をコーディネーターとして指名している。来年度は役割を分担して、園内委員会をさらに充実させたい。就学支援シートを面談の際にも活用して、移行支援につなげている。

### 〈五城目小学校〉

- ・3名のコーディネーターを配置するなどして校内支援体制を整備している。職員会議後に「子どもを語る会」を設けて、全校職員で情報を共有している。生活支援員に対しては、月2回打合せ日を設けたり、お互いの活動を見合ったりする機会をつくっている。

### 〈五城目第一中学校〉

- ・年3回特別支援委員会を開催しているが、それ以外でも突発的に行っている。中学校の3年間はあっという間なので、1年生のときから本人と保護者との進路面談を実施している。特別支援学校の見学や教育相談は、2年生から計画している。

### 〈五城目高等学校〉

- ・年5回特別支援委員会を計画しているが、実際の指導は学年部で抱え込む傾向にある。支援したい生徒はいるが、保護者が納得しないため、先に進めないケースがある。

## 井川町連絡協議会 平成28年2月4日(木) 14:00~15:30 井川町農村改善センター

今年度初めての開催、しかも、井川町教育委員会主催でした。事務局より「特別支援教育の動向と井川町連絡会の意義」というテーマで講話した後、情報交換を行いました。他地区と異なり、支援を必要とする子どもの情報交換を中心に進行しました。

### 〈井川こどもセンター〉

- ・保健師から健診結果を教えてもらい、職員間で共通理解を図っている。保護者はわが子の特性を認めたくない傾向が強いため、医療機関の受診に同行することもある。
- ・家族支援が必要なため、就学に当たり保護者と合意形成するまで時間のかかったケースがあった。

### 〈井川小学校〉

- ・支援を必要とする子どもの主訴は、学習の遅れ、衝動性、注意の集中・持続、発達障害や適応障害などである。
- ・来年度中学校に入学する子どもの検査を実施したが、保護者の理解まで至っていないため、中学校と顔の見える引継ぎをしたい。

### 〈井川中学校〉

- ・家族支援が必要な生徒については、今後、町民課と連携しながら対応する。
- ・学習の遅れがある生徒を総合教育センターで検査をした結果、保護者が納得して来年度から特別支援学級に入級するケースがあった。

※高校入学後、心配な生徒については「高等学校特別支援隊」の活用を勧める。(事務局)

### 〈町民課健康福祉班〉

- ・特別児童扶養手当受給者や療育手帳保持者等の現状について報告があった。手帳取得については、学校から勧めてもらおうと保護者は納得しやすいので、情報交換をしていきたい。

### 〈教育委員会〉

- ・来年度9月頃に、保健師や天王みどり学園の職員と園訪問を計画し、年長の子どもの様子観察を行う。併せて、年中の子どもも観察し、5歳相談会につなげたい。
- ・来年度も教育委員会主催で、今年度と同じような時期に本連絡協議会を開催したい。

昨年度に引き続き、2回目の地元開催でした。今回は秋田西高等学校の先生が出席くださり、高校の校内体制や生徒への支援状況を知る機会になりました。

〈社会福祉課〉

- ・年2回地域自立支援協議会を開催し、市の障がい福祉計画の検討や事例検討会を行っている。他の市町村の取組を参考にしながら、さらに機能する協議会を目指したい。

〈家庭相談員〉

- ・難しいケースの相談を担当していると、就学前の早い段階に問題を見付け出せると、早期解決につながると思っている。直接、現場に出かけて、子どもや家庭に関する情報収集を心掛けている。

〈健康推進課〉

- ・法定健診で何かあったときは、園との情報交換や療育センターの受診を勧めている。2歳6か月児歯科健診で、早期発見・療育につなげるために新たに臨床心理士による様子観察を導入した。

〈幼児教育課〉

- ・毎月、園長会議を開催して、各園の課題を検討したり、共通理解を図ったりしている。今後、教育委員会とも連携しながら、市全体として形になるものを作りたい。

〈教育委員会〉

- ・言葉の検査や就学相談の充実を図っている。教育委員会独自のリーフレットを作成し、園訪問や入学説明会で、保護者や現場の先生に気軽に相談してもらえる支援体制づくりに努めている。

〈保育園〉

- ・就学支援ファイルは、保護者に納得した上で書いてもらっている。保護者に言いづらいことや大切なことは、小学校に直接伝えている。定期的に教育委員会と連携して子どもの指導に当たっている。

〈大豊小学校〉

- ・長期休業中の市の研修会で支援を必要とする子どもの情報交換を中学校区ごとに行っている。顔の見える引継ぎと、子どものことを知るために幼保、小中が交流し合う機会を設ける必要がある。

〈秋田西高等学校〉

- ・地生研、入学前の保健調査書、養護教諭のネットワークを活用して情報収集をしている。月1回、校内委員会で気になる生徒の情報交換をし、必要に応じてスクールカウンセラーにつなげている。

## 連携協議会を終えて

地域で「途切れのない支援」を実現するためには、子どもの情報がつながるシステムを構築すること、関係機関が連携した支援をすることが必要です。地元開催は、お互いの情報を共有し、役割を明確にすることになり、活動の成果を1+1=2ではなく、5にも10にも増やすことが期待できます。最後に、4地区の協議会で話題になったことを紹介します。

1 満5歳児を対象とした相談会

- ・関係機関が連携することで、乳幼児健診で分からなかった子どもの特性に気付くことができ、早期療育につながっている。

2 就学支援シート（潟上市は就学支援ファイル）の活用

- ・園と教育委員会が協力して様式を変えたり、保護者面談に活用したりするケースが増えている。

3 園、学校現場の課題

- ・コーディネーターの複数配置、計画的な校内委員会の開催等、園・校内支援体制が整備されてきた。しかし、支援をしたいが、それを望まない本人及び保護者との温度差をどう埋めるのか、保護者との連携が課題である。
- ・支援員の専門性を高めるために、地域資源を活用した市町村独自の研修会開催を期待したい。
- ・中学校、高等学校においては、生徒自身が自己選択・自己決定ができるように、1年生から計画的な進路指導が必要である。

4 本協議会を天王みどり学園主催から市町村主催へ

- ・来年度も2回目以降は地元開催という案が了承された。今年度、井川町が本協議会を主催したように、各地区の行政機関の皆様には、既存の組織（例：障害者自立支援協議会、要保護児童対策地域協議会等）を活用して、主体的に開催できる方法を検討してほしい。

本協議会の地元開催にあたり各地域の行政機関の皆様には、日程調整や会場準備等の御協力をいただき、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。